

九条の会のアピールは、『日本国憲法は今大きな試練にさらされています』と言う書き出しで始まっています。私を含め今日お集まりのかたがたの共有している実感だと思えます。

私は、東京三多摩に生まれ、尋常小学校に入学し、国民学校、尋常高等小学校、新制中学を経て、新制高校に入学すると言う子供時代をすごしました。国民学校時代には武器・弾薬を集める兵器廠に大砲の弾磨きに動員され、B29の爆撃やグラマン戦闘機の機銃掃射も受け、3月10日の東京大空襲は、東の空が真っ赤に焼けているのも目撃しました。後数年戦争が続いたら予科練に行つて死んでいたと思えます。

終戦後、平和のありがたさを実感し、今6人の孫がいますが、政治の現状を考えたとき怒りと、危機感を持っています。

湾岸戦争に自衛隊を派遣し、イラクには武器を持って参戦すると言う現状。戦後60年1人たりとも兵器を持って人を殺した事のない日本が立場を変えたと言う現実に直面したからです。そして、国会に置かれた、憲法調査会は4月には最終報告をまとめようとしています。9条を軸に「改憲すべきと言う意見が多数」という方向性まで打ち出そうとしていると言われます。さらに、改憲をにらんだ「国民投票法案」が、今年中にも出されようとしています。まさに憲法九条は試練にさらされています。

しかし、どの世論調査を見ても9条改憲に反対する人は国民の多数です。自民党・民主党・公明党の中にも反対する人がたくさんいます。九条の会のアピールが出され、ノーベル賞の大江健三郎さんたち九人の方々には精力的に全国を駆け回り、2月の横浜では5,000人が、3月の広島では2,600人が講演会に集まり、現在まで、すでに30,000人近くが聞いているそうです。

映画人九条の会・スポーツ九条の会・女性九条の会・宗教者九条の会・最近では、科学者九条の会が結成され、労働組合でも、退職者の会でも九条の会がつくられ、職場に地域に九条の会が作られています。地方議会でも、いわゆる保・革を問わず全会一致で議員九条の会がつくられた所もあります。私はここに、私たちの憲法の力を感じます。

しかし、これらの動きは、いわゆるマスコミには一行も報じられていないのも現実です。地域に、職場に、学園に、さまざまな団体・グループに九条の会が必要だと思えます。圧倒的といわれるアンケートに表される声を具体的なものとしてあらわす事がいま必要なことと考えます。小川町に九条の会を作ろうというのはそうした思いからです。

第2回のこの会は、110人の方に案内しました。それぞれの方からも独自に呼掛けていただきました。こうした力が集まれば、第3回はもっと多くの人に呼びかけ、多くの人に訴えられると思えます。私たちの目標は小川町に住む、過半数とは言わず圧倒的な9条擁護の賛同者を結集することです。今日・明日それを実現すると言った短期間勝負ではありません。「急がなければならないが、かといって慌てる事ではない。じっくり構えて多数を」ということを踏まえ、今日の集まりが実りあるものとなることを願って挨拶とします。

最後になりますが、呼掛け人の一人である上智大学名誉教授の松本さんをお願いして講演をしていただけることになりました。心からお礼を申し上げたいと思えます。

第九条、戦争の放棄、特に、 近隣諸国からの攻撃や、テロ攻撃に対する自衛権を考える

みどりヶ丘 松本 栄二

当日の講演はとても印象的でした。松本先生から講演の内容を寄せていただきましたのでそのまま掲載いたします。

私には1人の尊敬すべき韓国の友人がいる。金竜成さんがその人である。彼は慶州にナザレ園という在韓日本人妻が生活している施設を始めて既に40年近くになる。当初、ナザレ園は韓国内に於いて永らく批判の対象であり、しばしば、石礫が襲ったという。

金竜成先生の父親は、抗日運動を指導する者として憲兵に捉えられ獄中で死をとげた。母親は家族(子供)に及ぶ身の危険を感じ朝鮮半島を脱出。放浪の旅の末、病死。姉と共に残された竜成さんは孤児となり、夜半、畠の野菜を盗み、齧って過ごしたという。1920年代当時のことである。猟犬に吼えられた時の恐怖は今なお記憶にあるという。

1945年、日本の敗戦は朝鮮民族にとっては独立であった。然し、米ソの対立は半島に緊張を呼び、南北間の緊張が高まるなかで、金竜成先生は家族4人を連れ、平壤から南に向けての逃避行が始まる。親にはぐれ、乞食と化した幼子や母子の群れとの出会いは、いつの間にか、避難民の群れのリーダーとして、金さんを押し上げていた。

数ヶ月に及ぶ、当ての無い避難の群れでの生活が先生の人生を変えた。餓死する人々の中に、日本人女性とその子が居た。其の経験が、韓国人孤児と在韓日本人妻(戦前・戦中親子の縁を切られても、尚、愛を誓った朝鮮の青年と結婚をし、幸せな生活をもった者が、戦後、独立した夫の故郷を慕い、夫と共に半島に渡ってきた日本女性)の救済運動に立ち上がる決意に駆り立てたのだという。日本に帰国する事も出来ず、朝鮮戦争のため夫婦・親子の離散した日本人妻は、韓国人からの排斥を恐れ、身分を隠し全国に隠れ住んでいた。それを知った金竜成さんは、自分の身の危険を省みず、日本人妻を山中に訪ね、3000人を探し出し、其の生活援助のため、毎月5円の送金活動をはじめた。裏へ

きりとり

アンケート

- 1 「会」をつくる事に賛同できるようでしたら、「賛同署名」をお願いします。
- 2 小川町に「九条の会」をつくる事について、ご意見をお聞かせください。
- 3 「会」をつくるために通信費等に当てるためのカンパにもご協力ください。
- 4 お知り合いの方をご紹介いただければ有り難いと思えます。
(裏面通信欄もご利用ください。あて先は西田一雄までお願いします)

「会」結成後は郵便局振込用紙を用意したいと思っています。

小川町九条の会の結成に賛同します。

住所
氏名
電話・FAX

カンパ

円

周りの抵抗は激しかったという。老躯と病に臥す女性は慶州の掘っ立て小屋、自宅に引き取り休養させた。ナザレ園のはじめである。

「憎しみ・争いは、許しと和解によってのみ平和を勝ち取ることができる。日本は韓国と中国にとって真の盟邦となり、(仕える者と為ることによって=筆者挿入)上に立つ者であって欲しい」と金龍成先生は、しばしば、話をされていた。(一昨年死去。)

話は全く異なるが、筆者は、江南大学(韓国における名門校の一つ)の開学記念日に講演の依頼を受け、「戦後日本社会における福祉国家の発展」について語ることの機会があった。講演の後、質問に立った学生の1人が「どうして、無条件降伏し、廃墟と化した日本が、敗戦後、僅か、5年にして戦前以上の経済復興を遂げ、生活水準を高めることが出来たとお思いでしょうか?」と演者に「問うこと」を求めた。

朝鮮半島全部を焦土と化し、終には、民族を二分化することになった朝鮮戦争が、生産手段の壊滅状態にあった日本経済に、大量消費の軍需機材の調達を求め、人的資源をフル稼働することにより、「日本」は奇跡の復興?が出来たのではないのか、それが、福祉国家への道を容易に整えることが出来たのだと、其の若者は主張したいことが分かった。近き将来、韓国における指導的立場に立つ若者らが、両国の関係を機軸に日本を見つめていることを改めて覚知した。

これからの予定

第一回準備会開催

日時 05年 4月 23日 14時から 17時

場所 みどりが丘自治会館(「ヤオコーみどりが丘店」裏)

「各界への働きかけ」「結成総会の日時等」「アピールと会則等の素案作成」

「当面の活動」「憲法学習会について」等を話し合います。

「結成総会」

を遅くない時期に開催したいと思います。皆さんご協力をお願いいたします。

き り と り

通信欄

九条の会

1 2005.4.2
だより

「九条の会」結成準備委員会議(西田気付け)
〒355-0315 小川町みどりが丘 5-13-3
T/F 72 - 4445 Eメール nishidak@f8.dion.ne.jp

第2回「呼びかけ人会議」開催

3月19日(土)
44名の参加

小川町にも「九条の会」を結成しよう、という目的で開かれた、3月19日の第2回呼びかけ人会議は41人が出席(外に欠席するが趣旨に賛同するとの連絡者11人)し、「小川町九条の会」結成に向けて意思統一し、結成準備委員を選出して結成に向けての諸活動を開始することになりました。(ご参加のみなさんありがとうございました。)

結成総会に向けてのアピール(案)や、会の約束事(会則)(案)などはこれから準備委員会で作成し、皆さんと相談することになりますが、当日考え方として提起された「骨格」は次のようなものです。

- 1 「九条の会」のアピールを支持し、「日本と世界の平和な子々孫々の未来のために、「憲法九条を守る」という一点で手をつなぎ「改憲」のくわだてを阻むため、ひとり一人が出来るあらゆる努力をする」ことを目的とする「小川町九条の会」(仮称)をつくることを提案します。
- 2 「小川町九条の会」(仮称)は、その目的を達成するために、勉強し合い、必要な運動を行います。運営の基礎財源は、会費・寄付金とし、年会費は一口を200円とします。会費の口数に関わらず、会員の権利は同等です。日常の運営は、「運営委員会」があたり、「運営員会」のもとに「事務局」をおきます。
- 3 「小川町九条の会」(仮称)は、小川町に住み・働き・学ぶ人で上記の目的に賛同する全ての個人の参加を求めていきます。
- 4 「小川町九条の会」(仮称)は、政党・労組その他の団体・サークル等が1項の趣旨のもとに、それぞれの立場で独自に活動することを歓迎します。

賛同署名と基金カンパのお願い

今回の会議に出席された皆さん、ご参加、ありがとうございました。また、こころよくカンパをいただいた皆さま、御礼申し上げます。

今回未回答の皆さまや、第2回呼びかけ人会議にご案内を差し上げた皆さまに重ねてお願いいたします。小川町に「九条の会」を結成する事にご賛同いただけるならば、賛同の意思表示と基金を作るためのカンパにご協力ください。

右記のアンケート用紙は、あなたのご意見をお聞かせいただくことを兼ねて用意しました。カンパは出来ないが「会」をつくる事には賛同するという方もこの用紙を使ってFAXやEメール、又は郵送でご意見・メッセージをお送りください。

(準備委員会は、4月23日に会合し準備委員会代表者やアピール案等を討議する予定です。それがそれまでも多くの賛同者や基金申し込みを得たいと思っています。)